

Ⅱ 農業・農村の振興方向

1. 基本課題についての方向

農業者の高齢化による農家数の減少や耕作放棄地の増加、地球温暖化に起因する異常気象や食の安全の確保など様々な課題に対応するため、以下の活動に取り組みます。

(1) 担い手の育成・確保

農業経験が浅い新規就農者やU・I・Jターン就農者には、4Hクラブへの参加やオープンセミナーなどを通じて交流の促進と栽培技術の習得を図ります。また、関係機関が連携し、就農計画の策定や研修制度の充実、フォローアップ活動の強化などの支援を行います。

認定農業者には、農業の担い手として収益性を高めることを基本に経営改善に対する支援を行います。また地域農業のリーダーである農業士や女性農業者グループ活動支援を行います。

このような活動を組み合わせることにより、多様な担い手の育成を目指します。

(2) 県産ブランドの構築

うめ、柑橘、ミニトマト、えんどう類、小玉すいか、スターチスなどの特産品が持つブランド力をさらに高めるため、高品質安定生産を推進するとともに、地域内外で実施するPR活動や食育、花育などの取組を支援します。

(3) スマート農業等革新的技術の導入

施設園芸では、ICT技術を活用した環境制御技術の導入により、高品質安定生産を推進します。

また、果樹や水稻などの露地品目では、超省力化を可能とする機械の導入を推進し、労働力の減少に対応できる産地化を推進します。

(4) 気候変動や自然災害への対応

補助事業を活用し、栽培施設における耐風性の高度化などを推進することにより生産環境を整えるとともに、高温耐性に優れる品種の導入など技術面での対応を強化します。

また、農業共済や収入保険への加入を推進し、リスクの軽減を図ります。

(5) 安全・安心で機能性を備えた農産物の安定供給

GAP制度に対する認知度を高め、国際的に通用するGAP制度とその必要性について周知するとともに、生産現場における取組を支援します。

(6) 鳥獣被害・耕作放棄地の解消推進

サルの行動域調査や補助事業の活用を推進するとともに、市町、猟友会と連携し、地域住民が主体となった鳥獣被害対策に取り組みます。

また、市町、農業委員会、JA、農地中間管理機構などの関係機関と連携を図り、担い手への農地集積を推進するとともに、農作業の受委託による農地の維持や地域による保全活動を推進し、耕作放棄地の抑制を図ります。

2. 主要農産物の振興方向

○ 果 樹

当地方は、梅干しや梅酒用として品質の優れた豊産性の「南高」を中心に全国トップクラスのうめ産地が形成されるとともに、温暖な気候と傾斜地を利用した柑橘類が栽培されています。

うめについては、基本的な栽培管理技術の徹底に加え、生産安定を図るため自家和合性品種の導入や、「露茜」などの梅干以外の用途に利用される有望品種の導入を推進し、安定した収益の確保を目指します。また、青梅の省力化及び安定供給のため、低樹高化（カットバック）と摘心処理を組み合わせた技術の推進や、収穫期などの農繁期における労働力不足の解消に取り組みます。さらに、うめ新害虫については、「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒や「ヨコバイ類」の蔓延防止を図ります。

温州みかんでは、「ゆら早生」や「YN26」などの優良品種の生産拡大を推進するとともに、省力化や高品質化を目指した技術導入を推進し、産地ブランドの強化による生産者の所得向上を図ります。

「はっさく」や「不知火」などの中晩柑類については、越冬完熟果生産や冷蔵貯蔵技術を活用し、付加価値が高く長期間出荷できる体制づくりを進めます。また、年明けの端境期出荷や施設栽培向けの有望品種を探索します。



うめ「露茜」



極早生温州みかん「YN26」

○ 野 菜

当地方は、県内有数の野菜産地であり、温暖な気候を活かして小玉すいか、きゅうり、ピーマン、ブロッコリー、いちごなど多くの品目が栽培されています。特にえんどう類やミニトマトは、産地として市場から高い評価に加え高付加価値化によるブランド力を有しており、今後の気候変動や高齢化に対応するため、さらなる産地強化に取り組みます。

施設栽培においては、耐風性・耐暑性を高めたパイプハウスの導入などによる施設の高度化を図るとともに、ICT技術を活用した環境制御技術の導入による高品質化と生産性の向上に取り組み、経営の安定化を図ります。

また、草丈を低く抑えることが可能なうすいえんどうの新品種「光丸うすい」の導入や露地野菜への省力化機械の導入など省力・軽労化の推進に取り組みます。

近年の気候変動の影響による難防除病害虫の発生が増加しており、効果的な農薬防除に加え、耐病性品種やフェロモン剤の活用など、総合的病害虫・雑草管理（IPM）を推進し、生産の安定化に取り組みます。



省力化が期待される新品種のうすいえんどう「光丸うすい」（左列奥側）



ミニトマトの栽培環境をスマートフォンでモニタリング

○ 花き

当地方では、温暖な海岸部地域にスターチス、宿根カスミソウを主とした全国トップクラスの施設花きの産地が形成され、中山間地域には、千両やさかきなどの切り枝類が生産されています。

施設花きでは、低温管理下での安定生産技術や高品質安定生産のための環境制御技術の導入を推進します。また、経営の安定化を図るため、メイン品目を主体としつつ、補完品目の導入を推進します。主要品目のスターチスでは、県育成品種の導入による生産コストの低減やガク落ち症状などの生理障害の原因究明、難防除病害虫対策に取り組めます。

中山間地域では、省力的な新規品目を探求するとともに、花木類や切り枝類の産地強化を図ります。

また、地元の児童に花きに親しんでもらうため、生産者が主体となり実施されている「花育」の取り組みや「母の日参り」などの花き消費拡大活動について、関係機関と連携し支援を行います。



日本一の作付面積を誇るスターチス・シヌアータ



高校生への花きPR活動